

2025 年度 事業報告書

2025 年度 目標

「声をきく」

ご利用者さんの声、活動者さんの声、ご支援くださる方の声、地域の皆さんの声、小さな声にも耳を傾け、声にならない声にも耳を澄ませて、皆さんに寄り添える絆でありたい。

2025 年度の取り組み・成果・残された課題

- ・移送やゴミ出し支援の需要は高く件数も伸びているが、従事者数は増えておらず、担い手一人当たりの負担は大きくなっている。
- ・地域に受け皿の少ない要支援者や事業対象者の受け皿として、訪問・通所事業とも多くのご利用者をお引き受けできた。ただ収入には結びつかないため、会計は厳しい状況が続いている。
- ・最低賃金の大幅な上昇により、扶養内で働く人の収入制限は、かえって人手不足を招いた。130万円の壁対策が求められる。
- ・地域の縁側 グリーン・ラソでは、「ひと・はこ文庫」のオープンで、多世代の交流や新たな活躍の場となった。文庫で行う駄菓子屋により子どもの来館は増えたが、ゴミ等の新たな課題も発生。課題解決のために、地域の皆さんと話し合うきっかけとなった。

2026 年度 目標

「絆の強み、私の強みを、連携に活かそう!!」



地域の縁側 グリーン・ラソ
こども食堂

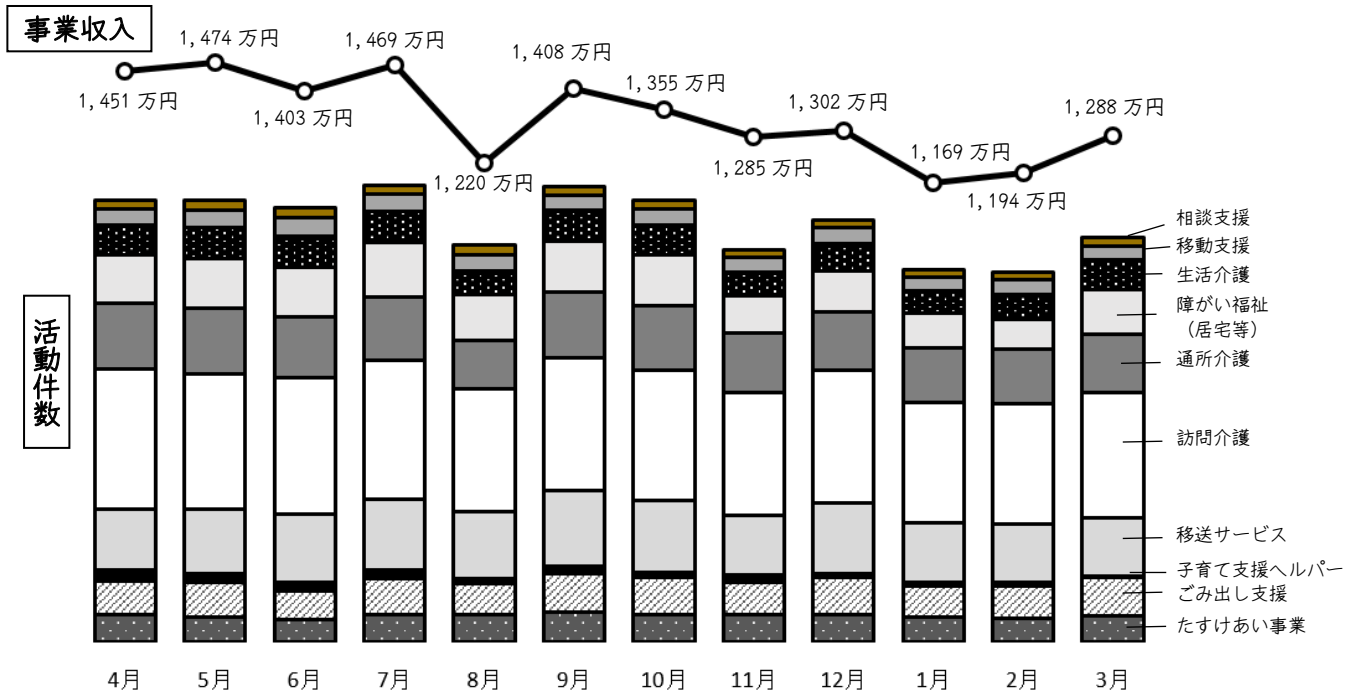


地域の縁側 ラソプラザ
宿題塾まつり

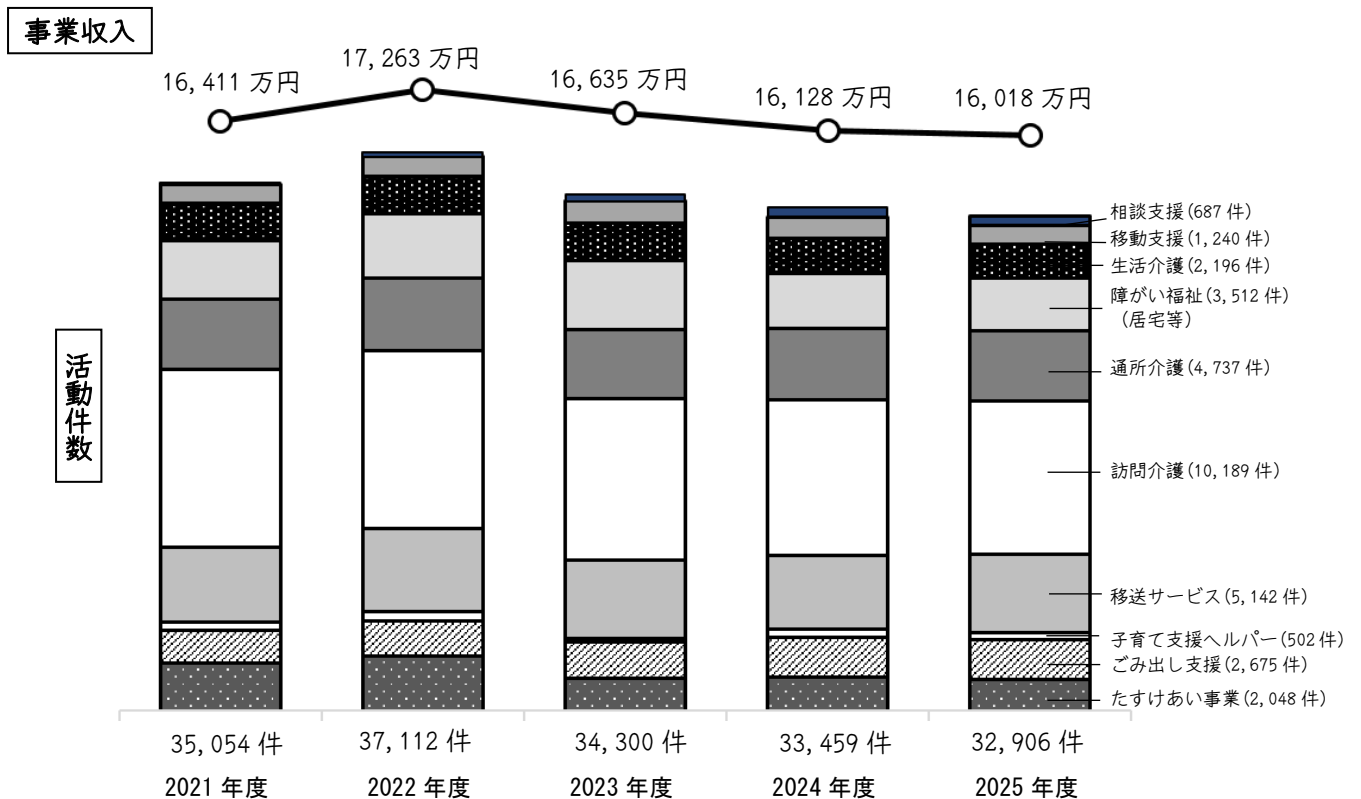
どちらも
FC刈谷さん
のご協力で
開催

グラフでみる 2025年度

① 年間の活動件数と事業収入の推移（ふれあい事業を除く）



② 5年間の活動件数と事業収入の推移（ふれあい事業を除く）



I. 特定非営利活動に係る事業

たすけあい

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

現行の公的制度では対応ができない家事援助・身体介護・話し相手・子育て支援・代行などの在宅支援や、家で一人では心配な方などに、気軽に通える場の提供を行う

事業報告

※()内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 56人(+6人) 【実施日】 通年随時 年間 2,048件(▲223件)

【受益者】 絆会員 114人(+9人) 【事業収益】 4,970,746円(+9,317円)

2025年度 目標

- 『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』
- ・地域の皆さんの困りごとに柔軟かつ迅速に対応できるように、態勢を整える

主な取り組み

- ・制度ではできない、同居家族のいらっしゃるお宅の家事支援などを制度と組み合わせてご利用いただく活動が増えている



成果

- ・子育て支援ヘルパーを利用されたご家庭で、制度の契約期間終了後も「たすけあい」で引き続きご支援できることがある

残された課題

- ・通院時の付き添い、大掃除、草取り、ペットのお世話などの依頼が多い。たすけあい活動に賛同し、お手伝いをお願いできる方を増やしたい

事業計画

【従事者人数】 絆会員 56人 【実施日】 通年随時 年間 2500件

【受益者】 絆会員 120人

- ・一つ一つの声に真摯に向き合い、困りごとに柔軟かつ迅速に対応できるようにする
- ・地域の皆さんの「〇〇ならできる」という声を大切に、人材確保につなげる

移送サービス（福祉有償運送）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：移送サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 病院、施設等

事業概要

通院や買い物、社会参加など、外出の際に公共交通機関を利用して出かけられない方へ、福祉有償運送サービスを行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 40 人(▲1 人)

【実施日】 通年随時 年間 5,142 件(+250 件)

【受益者】 絆会員のご利用対象者 209 人(+4 人)

【事業収益】 11,045,243 円(+464,736 円)

2025 年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』

- ・多くのニーズに対応できるよう、福祉有償運送の有資格者の増員を目指す
- ・ひやりはっとの報告や共有により、安全意識を高めて質の高い移送サービスを提供する



主な取り組み

- ・通院の依頼が多く、病院への送迎および付き添いの希望も増えている。

成果

- ・「移送サービスもできる事業所」ということで、ケアマネジャーからの依頼も多く、絆のサービスを使うきっかけとなっている

残された課題

- ・今後も移送サービスのニーズに応えるため、人員および車両の確保を含め、安心して乗車していただけるよう、質の高いサービスを目指す

事業計画

【従事者人数】 絆会員 42 人

【実施日】 通年随時 年間 5,300 件

【受益者】 絆会員のご利用対象者 220 人

- ・安全運転講習を実施し、個々の運転技術やマナーの見直しを行い、地域の方にも信頼されるサービスを目指す

訪問介護（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号訪問事業
【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 45 人（▲2 人） 【実施日】 通年随時 年間 10,189 件（▲170 件）
【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 171 人（▲3 人） 【事業収益】 34,799,722 円（▲1,443,108 円）

2025 年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』

- ・サービス提供状況やご利用者のサービスへの要望や満足度を定期的にモニタリングし、ケアマネジャーへの報告を密にしていく



主な取り組み

- ・施設入所やご逝去等で件数としては減っているが、新たな依頼は断ることなく受け入れ、利用に結びつけることができた

成果

- ・他事業所で利用を断られた事業対象者や要支援者等の受け入れをし、ご利用者のサービスが継続できる受け皿となっている

残された課題

- ・ご利用者を包括的に支援できるよう、事業所内外および関係機関との連携を深める必要がある

事業計画

【従事者人数】 絆会員 47 人 【実施日】 通年随時 年間 11,000 件
【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 180 人

- ・事例検討会を定期的かつ必要時には迅速に開催し、支援の統一や課題を共有し、サービス提供につなげる
- ・おだいちゃんネットを活用し多職種、関係機関とも情報共有に努め、スムーズな連携を目指す

子育て支援ヘルパー（健康課委託）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町 ご利用者宅 または 病院等

事業概要

妊婦または乳幼児のいる母親が、病気などで家事・育児が困難な際にヘルパーを派遣し、子育てを支援する

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 13人(▲2人)

【実施日】 通年随時 年間 502件(▲45件)

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 16人(▲5人)

【事業収益】 2,073,500円(▲138,600円)

2025年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』

- ・子育て支援ヘルパーの情報交換会を開催し、安心して活動できるようサポートする

主な取り組み

- ・子育て支援ヘルパーの情報交換会を開催
- ・産後の母の負担軽減のため、食事作りを中心に支援



成果

- ・全体的にはやや少ない状況であったが、1年を通じて利用者数は一定数あった
- ・支援記録の電子化（ペーパーレス）により、子ども家庭センターからのモニタリングに対しても、迅速に状況を報告することができた

残された課題

- ・依頼数の不安定さ

事業計画

【従事者人数】 絆会員 15人

【実施日】 通年随時 年間 550件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 20人

- ・子ども家庭センターとの連携を強化し、子育て支援ヘルパー事業の利用者を安定的に確保できるよう取り組む

障がい福祉（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障がい福祉サービス事業（居宅介護・重度訪問介護・同行援護）

【実施場所】東浦町及び近隣市町のご利用者宅

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員 43人(±0人)

【実施日】通年随時 年間 3,512件(▲196件)

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 33人(+1人)

【事業収益】20,290,928円(▲333,866円)

2025年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』

- ・研修や事例検討により、個々の障がいや環境に寄り添った支援を実施する

主な取り組み

- ・障がいのある方の在宅支援を他事業所、他職種と連携を取りながらサポートした。障がいの割合としては、精神障がいの方の割合が多くなっている



成果

- ・精神障がいの方への対応研修を実施し、対応方法や理解を深めることができた
- ・頻回に利用のあったご利用者の入院や入所で、全体の件数としては減ったが、時間に関わらずニーズに応じた訪問を行うことができた

残された課題

- ・様々な障がいのある方にも対応できる知識や技術を、経験や研修により蓄積していく必要がある

事業計画

【従事者人数】絆会員 45人

【実施日】通年随時 年間 4,000件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 35人

- ・研修や事例検討会開催により、個々の障がいや状況に応じた支援ができるように、連携強化とスキルアップを目指す

移動支援（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障がい者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 外出先

事業概要

ご利用者の意思を尊重し、気持ちに寄り添いながら、その人らしく過ごせる余暇支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 42 人(▲6 人)

【実施日】 通年随時 年間 1,240 件(▲202 件)

【受益者】 絆会員のご利用対象者 80 人(▲1 人)

【事業収益】 10,465,317 円(▲569,592 円)

2025 年度 目標

- 『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』
- ・活動者が主体的に活動できるよう、情報共有や事前の情報提供をしっかりと行う



主な取り組み

- ・在宅からグループホームへ移住したご利用者も何人かいたが、引き続き移動支援利用となっている

成果

- ・新しいご利用者や、コロナ禍で自粛していた方の利用が増えた
- ・事前の情報提供をしっかりと行うことで、トラブルが減少した

残された課題

- ・ご利用者の要望や依頼にできる限り対応できるよう、ヘルパーの人員確保が必要

事業計画

【従事者人数】 絆会員 50 人

【実施日】 通年随時 年間 1,500 件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 85 人

- ・依頼にできる限り対応できる人員確保のため、求人広報活動を実施する

ごみ出し支援（環境課委託）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町 ご利用者宅

事業概要

同一世帯で65才以上の方、もしくは避難行動要支援者名簿に登録されている方を対象に、週1回50円で、燃えるごみをご自宅からごみステーションまで運ぶ

事業報告

※()内は前年度比

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 11人(▲4人)

【実施日】 毎週火・木曜日 朝 年間 2,675件(+75件)

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 77人(+4人)

【事業収益】 1,513,600円(+79,475円)

2025年度 目標

ご利用者の都合に合わせ、詳細を相談しながら、ゴミ回収や集金等を行う

主な取り組み

- ・高齢者等を対象としたごみ出し支援を継続し、地域での生活を支える仕組みを維持した
- ・関係機関と連携し、利用者の状況に応じた柔軟な対応と安全な運営に努めた



成果

- ・実施件数は 2,600件 → 2,675件 (+75件) と増加し、支援ニーズの高まりに応えた
- ・限られた人員の中でも安定的にサービスを提供し、地域における必要性和信頼性を高めた

残された課題

- ・従事者数の伸び悩みによる担い手の確保や業務負担の分散が十分ではなく、今後の利用者増に対応できる体制づくりが必要である
- ・低料金の事業であるため、今後の継続的な運営が課題となっている。

事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 15人

【実施日】 毎週火・木曜日 朝 年間 2,800件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 80人

- ・行政と連携しながら、利用者のニーズに丁寧に対応するとともに、業務の見直しや効率化を進め、無理のない継続的な活動運営を目指す。

通所介護（デイサービスセンター 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号通所事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

自己選択、自己決定の仕組みを大切に、ご利用者一人一人の意思を尊重し、生きがいのある楽しい1日になるよう支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 35人(+1人)

【実施日】 月～金曜日 年間 4,737件(▲2件)

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 53人(▲5人)

【事業収益】 40,939,586円 (▲42,187円)

2025年度 目標

心的心声を聴き はじめの一歩へ



主な取り組み

- ・ご利用者お一人お一人の得意を活かせるようなプログラムを実施した
- ・コロナ禍で中断していた「押し花」や「アニマルセラピー」の人気プログラムを再開した

成果

- ・スタッフの新体制によりチームの連携の大切さを再認識したことで、個々の意識が高まった。
- ・季節のおやつ作り（つくし・桜餅・おはぎ・ぼたもち等）を取り入れることで、自然な対話が生まれ、ご利用者の懐かしい思い出や体験を引き出す回想法につながった

残された課題

- ・自己選択・自己決定の関わりの中で、より個々にあった対応ができるよう、選択ボードの充実化や仕組みづくりの見直しを行う

事業計画

【従事者人数】 絆会員 35人

【実施日】 月～金曜日 年間 5,000件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 65人

- ・利用のニーズが高いことから、定員を22名から25名に変更する
- ・増築により入浴環境が変わるため、ご利用者にあった入浴方法や環境を整える
- ・役割分担や業務内容をルール化し、業務の統一につなげる

生活介護（さくさく工房 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障がい福祉サービス事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

- ・日常的に介護を必要とする方に対して、日中活動を行う
- ・自己選択・自己決定を大切にし、ご利用者の気持ちに寄り添う支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 27人(±0人)

【実施日】 月～金曜日 年間 2,196件(▲106件)

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 28人(+1人)

【事業収益】 24,519,119円(▲734,517円)

2025年度 目標

「そうだね」が合言葉

主な取り組み

- ・ご利用者の話を傾聴し、お一人お一人の気持ちに寄り添いながら、「話を聞いてもらえている」と思っていただけよう心がけた
- ・ご利用者に1日1つでも「楽しかった」「嬉しかった」と感じていただけるよう内容を見直した



成果

- ・「季節の工作」は、皆さんに好評で、多くの方に参加していただけた
- ・「人生すごろく」では、普段聞けないご利用者の思い出や好きなことを知ることができ、とてもいい交流の時間となった。定期的に質問の内容を変え、今後も楽しんでいきたい
- ・「体操」は、「皆で座ってできるなら参加したい！」と散歩が苦手な方も参加してくださった

残された課題

- ・傾聴の効果をはっきり感じる事ができず、ご利用者の気持ちを十分くみ取れたか不安が残る
- ・ご利用者が年々減少しているため、新規利用者の獲得を目指す

事業計画

【従事者人数】 絆会員 27人

【実施日】 月～金曜日 年間 2,500件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 35人

- ・傾聴についての研修に参加し、理解を深める機会をつくる
- ・体験希望の方や町外からのお問合せが増えているので、近隣の町外の方の受け入れも検討する

相談支援（相談支援センター 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業・児童福祉法に基づく障がい児相談支援事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 及び 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

障がいのある方が安心してその方らしく生活するために、悩みや困りごとの相談に応じる必要な障がい福祉サービスの情報を提供し、利用につなげ、つながった先の支援者とともにご利用者をサポートする

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 4 人（±0 人）

【実施日】 月～金曜日 687 件（+65 件）

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 156 人（+12 人）

【事業収益】 9,568,708 円（+1,610,763 円）

2025 年度 目標

五感で聴き、関係性を築く



主な取り組み

- ・直接会うことを大切にし、言葉だけでは感じることをできない感情をキャッチできよう努めた

成果

- ・現任研修修了者が2名となり、チーム全体の知識を底上げすることができ、基幹からの困難事例も受け入れることができた
- ・週1回の定期ミーティングを行うことでタイムリーな情報共有ができ、一人で抱えることなく客観的な視点を持つことができた

残された課題

- ・関係機関と連携し、いかに「本人支援」を実現していくのか模索中

事業計画

【従事者人数】 絆会員 5 人

【実施日】 月～金曜日 年間 700 件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 160 人

- ・ご利用者が「自分で選んだ」と感じられる支援を行うために、行政や協働体の相談員とも連携する
- ・多職種や家族との情報共有を行い、役割分担を明確にし、本人の意向を記録として残していく

居場所事業

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 さをり工房 あんきにきて家(さをり織り)

地域たすけあいセンター絆 風ハウス(コミュニティカフェ・お茶を楽しむ会)

事業概要

どなたでも利用できる居場所として、【さをり織り教室】【風喫茶】【お茶を楽しむ会】を定期開催し、絆を身近に感じてもらう

事業報告

※()内は前年度比

| | | |
|--------|---------------|-----------------------|
| 【事業収益】 | さをり織り教室 | 1,160,677円(+223,344円) |
| | コミュニティカフェ 風喫茶 | 96,800円(+9,900円) |
| | お茶を楽しむ会 | 118,181円(+37,406円) |
| | 風ハウス貸館事業 | 74,100円 |

さをり織り教室

【従事者人数】 絆会員 2人(±0人)

【実施日】 火・木・土曜日 年間 115日(+2日)

【受益者】 絆会員 延べ 898人(+177人)

コミュニティカフェ 風喫茶

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 11人(+2人)

【実施日】 第4金曜日 年間 12日(+1日)

【受益者】 地域の方 延べ 546人(+93人)

お茶を楽しむ会

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 5人(+2人)

【実施日】 月1回 水曜日 年間 12日(+2日)

【受益者】 地域の方 延べ 419人(+66人)

2025年度 目標

出会いを楽しむ

主な取り組み・成果・残された課題

【さをり織り】

- ・新たにさをり織りに興味を持つ仲間も増え、豊かな時間が共有できた
- ・定例となった年に一度の「作品展」も、地域の皆さんと触れ合うよい機会になっている
- ・見学者も多いことから、その場で作品を購入できる棚の設置も考えていく

【風喫茶】

- ・月に一度のコミュニティカフェは、協力してくださるボランティアさんのおかげで、素敵なケーキと喫茶店の雰囲気が毎回大好評！主に、通所の利用者さんの楽しみの場となっている
- ・地域の方やヘルパーさん達にも、気軽に来ていただけるような周知も考えたい

【お茶を楽しむ会】

- ・季節の花や雑貨でお茶室の雰囲気をつくってくださるボランティアさんのおかげで、いつもとは違った会話を楽しみ、しっとりした心豊かな時間を過ごすことができている
- ・抹茶や和菓子の高騰で、やむなく値上げをさせていただいた

事業計画

■ さをり織り教室

【従事者人数】 絆会員 2人

【実施日】 火・木・土曜日 年間 115日

【受益者】 絆会員 延べ 900人

■ コミュニティカフェ 風喫茶

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 12人

【実施日】 第4金曜日 年間 12日

【受益者】 地域の方 延べ 550人

■ お茶を楽しむ会

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 3人

【実施日】 月1回 水曜日 年間 10日

【受益者】 地域の方 延べ 400人

- ・居場所ごとの雰囲気づくりをボランティアさんと一緒に考えながら、新たな参加者や協力者につなげていく



福祉拠点普及促進コーディネーター事業(ふくし課委託)

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、ラソプラザ等

事業概要

地域住民が担い手として活動する場の確保、人材育成、居場所に関する相談・研修・啓発・協議体への参加協力を行う

事業報告

※()内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 2 人(±0 人)

【実施日】 通年随時

【受益者】 地域の方

【事業収益】 6,900,000 円(▲5,000 円)

2025 年度 目標

多世代が参加しつながれる居場所の開拓



主な取り組み

- ・居場所に関する相談や見学、体験等に応じ、立ち上げの支援を行った
- ・「食を通じた居場所のゆるい情報交換会」で、様々な団体と意見交換や情報共有を行った
- ・教員で本屋を立ち上げた船張真太郎さんをお招きし、居場所の講演会を開催した

成果

- ・町内や他市町の「居場所に関する相談」に応じ、「居場所づくりの研修」依頼も積極的に受けることで、絆としても視野が広がり、つながりが増えた
- ・土曜、日曜に企画を開催したいという多世代からの問い合わせが増え、居場所への関心が高まってきた

残された課題

- ・多世代と新たな関係づくりがしたいと取り組んだ「一箱本棚オーナー制度」ではあったが、発展的な展開には至らなかった。今後の広がり期待したい

事業計画

【従事者人数】 絆会員 2 人

【実施日】 通年随時

【受益者】 地域の方

- ・多世代、多職種を巻き込んだワークショップや居場所セミナーを通して、新たな居場所の開拓と人材育成を行う

地域の縁側 グリーン・ラソ(常設居場所事業)



【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域の縁側 グリーン・ラソ

事業概要

0～100歳、どなたでも利用できる、自分らしく活躍できる居場所を提供するとともに、絆を知っていただく機会を設ける

事業報告

※()内は前年度比

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 163人(+10人)

【実施日】 月～金曜日 年間 296日(+6日)

【受益者】 地域の方 延べ 15,602人(+2,459人)

【事業収益】 4,731,167円(+1,003,641円)

2025年度 目標

出合いを楽しむ



主な取り組み

- ・当番やワンディシェフ、ボランティアとして活躍の場を提供する
- ・様々な企画を通して、知り合いを増やし、顔の見える関係づくり、楽しみづくりを行う
- ・「ひと・はこ文庫」を4月から開設。本棚オーナーを募り、多世代の交流を図った

成果

- ・新たにグリーン・ラソの存在を知ってくださる人や参加者、ボランティアさんも増えた
- ・コンサート形式で昼間に開催するようにした「音♪カフェ」で新たなつながりが生まれた
- ・「ひと・はこ文庫」を通して、これまでにはない多世代のつながりができた

残された課題

- ・「ひと・はこ文庫」の本棚の空きが、思うように埋まらない。SNSを使った周知など、多世代や本好きな人に関心を持ってもらえるような働きかけが必要
- ・「ひと・はこ文庫」のオーナーさんの交流会が開催できなかったので一緒に企画を考えたい
- ・エアコンの不具合対策を考え、居心地のよい環境をつくる

事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 170人

【実施日】 月～金曜日 年間 300日

【受益者】 地域の方 延べ 16,000人

- ・「ひと・はこ文庫」が、「新たな出会いづくり」となるよう、地域住民の声を聴きながら魅力や周知を強化していく

地域の縁側 ラソプラザ（常設居場所事業）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域の縁側 ラソプラザ



事業概要

食を介して、地域の方が気軽に集まれる居場所を提供するとともに、ボランティアとしてどなたでも自分らしく活躍できる場を設ける

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 80人(▲6人)

【実施日】 火～金曜日 年間 193日(±0日)

【受益者】 地域の方 延べ 16,273人(▲469人)

【事業収益】 4,173,470円(+279,098円)

2025年度 目標

出会いを楽しむ

主な取り組み

- ・モーニングやランチ等、食を通してつながる居場所や宿題塾で、多世代のつながりを増やす
- ・当番やワンデイシェフの活動を通して活躍する人たちの、居場所としての充実を図る



成果

- ・モーニングや、ランチなど、どのイベントも人数が増え、居場所としての役割を十分に発揮できた
- ・日々、地域の方々と関わることで、様々な相談を受けるようになり、他機関へつなぐことができた

事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 60人

【実施日】 5月までの 火～金曜日 33日

【受益者】 地域の方 延べ 3,000人

- ・スーパーの閉店に伴い、ラソプラザの活動も2026年5月末で終了となる。石浜地区の居場所づくりを、行政や社協、地域住民と一緒に考えていきたい。

ふれあいマーケット・絆まつり

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、地域の縁側 ラソプラザ等

事業概要

- ・季節の野菜や手作り品の販売、リサイクル品の寄付を通して、活躍できる・楽しめる場を提供する
- ・絆まつりなどを通して、地域の方と交流を図り、絆を知っていただく

事業報告

※()内は前年度比

【実施日】 ふれあいマーケット・縁側ラソ市：月～金曜日、ラソ市：第3木曜日、

絆交流 day：2025年10月18日【受益者】 地域の方 【事業収益】 1,210,005円(▲174,885円)

2025年度 目標

整理しやすい衣装ケースや棚を揃え、作業効率が上がるように環境整備を整える



主な取り組み

- ・物品の寄付を通して、顔の見える関係をつくる
- ・全ての物品を100円で販売し、地域住民の交流を図る
- ・年に一度の絆まつり（今年度は、きずな交流 day）を通して、会員同士やご近所さんとの交流を図る

成果

- ・ラソ市は、ご寄付くださる方や、手伝うボランティアさんも増え、よいつながりができている
- ・きずな交流 day では140名の方と、あたたかな交流の時となり、絆を深めることができた

残された課題

- ・物品置き場の充実と整理
- ・絆まつり開催当日の駐車場の確保

事業計画

【実施日】 ふれあいマーケット・縁側ラソ市：月～金曜日、ラソ市：第3木曜日、まつり模擬店：随時

【受益者】 地域の方

- ・ラソ市を継続する場所の確保
- ・タイムリーに商品に入れ替えをする等、多くの人に関心を持ち、楽しめる環境づくりをする

Ⅲ. 委員会活動

感染症対策委員会

【委員長】山本 浩貴 【委員数】6名 【開催回数】年間12回

2025年度 目標

- ・引き続き感染情報の共有と適切な対応に努め、感染症の拡大を防ぐ
- ・感染症マニュアルを整備し、周知する

主な取り組み

- ・コロナ、インフルエンザ感染者や発熱等の情報を集約し、事務所で情報を共有
- ・感染症に関する研修(年2回)、調理スタッフ、居場所の喫茶やランチ当番への検便(年2回)、害虫駆除対策(年1回以上)を実施
- ・感染症マニュアルを改訂

成果

- ・発熱等の報告や情報共有が定着し、法人内での感染拡大は起こらなかった

残された課題

- ・感染症マニュアル、BCPの周知
- ・より身近で実用的な研修の実施

2026年度 計画

- ・タイムリーな感染状況の集約と情報の共有を図り、感染拡大を防ぐ
- ・感染症BCP研修(通所系と訪問系の2回)、嘔吐物処理研修の実施
- ・食中毒予防として、検便と害虫駆除の実施



ここ de キャッチ委員会

【委員長】大木 久美子 【委員数】6名 【開催回数】年間11回

2025年度 目標

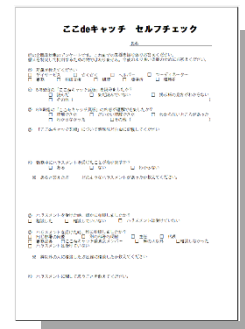
- ・虐待防止や身体拘束廃止についての知識を更新
- ・困りごとは一人で抱え込まないように、チェックリストを通して現場の声を聴く

主な取り組み

- ・毎月1回委員会を開催し、各部署の意見を聴きながら情報共有を行い、個別に対応を検討
- ・町や県の研修に積極的に参加
- ・全職員にチェックリストを実施

成果

- ・ハラスメント事例があり、継続して対応を検討
- ・研修に参加することにより、いろいろな視点を得ることができた
- ・契約書や重要事項説明書に、身体拘束に関する記載が追加された
- ・チェックリストの回収率が上がった



残された課題

- ・何が虐待にあたり、何が問題なのか、職員への研修などを通して、より周知啓発していく
- ・「ここdeキャッチ受付表」や「チェックリスト」の活用

2026年度計画

- ・「チェックリスト」の内容を精査し、よりよい支援に繋げる
- ・「ここdeキャッチ受付表」や相談を受けた後の流れを明確にするため、フローチャートを作成

チャレンジアップ委員会 【委員長】 冨田 真理子 【委員数】 5名 【開催回数】 年間6回

2025年度目標

『学ぶって楽しい♪』～意欲を引き出す研修を目指します～

主な取り組み

- ・年間の研修計画の作成と広報
- ・研修動画、記録の公開等



成果

- ・研修内容に応じて開始時間や回数を変え、参加してほしい方が参加しやすいよう工夫
- ・他サービス事業所の研修にも参加させていただくことができ、お互いの自社研修に参加し合える関係性を築くことができた

残された課題

- ・特に訪問ヘルパーは夕方の研修は活動と重なる方も多く、研修内容によっては、優先的に研修に参加してもらえるよう態勢を整えることが課題である

2026年度計画

「参加率アップ↑」

- ・広報チラシの内容や掲示場所の工夫によって興味関心をもってもらい、参加率を上げたい
- ・研修日程を早めに決め、参加してほしいヘルパーが参加できるよう、コーディネーターへの働きかけをしていく

防災委員会

【委員長】望月 真理 【委員数】6名

【開催回数】会議6回, 避難訓練1回, 活動者安否確認訓練12回, 研修4回, 備蓄品の確認1回
危険個所の確認1回, 通所ご利用者の緊急連絡先確認1回

2025年度 目標

防災に興味を持ってもらおう

主な取り組み

- ・BCPの年間計画に沿って活動を行った
- ・簡易トイレ、炊き出し（アイラップを利用）、防災グッズをリュックに詰める体験
- ・BCP研修、防災訓練の実施



成果

- ・ローリングストックとして品物を展示販売することで、日常生活とのつながりを意識した防災への関心を高めることができた

残された課題

- ・災害を自分の問題として実感できておらず、日常的な備えや具体的な行動にはつながりにくい

2026年度 計画

- ・実際の災害事例を参考に、もし自分だったらどう行動するかを具体的に考える機会をつくる
- ・防災を特別なことにせず、日常生活に組み込む工夫を提案する（一次備蓄・ローリングストック・防災訓練・簡易トイレ体験）

まつり委員会

【委員長】村瀬 文康

【委員数】8名

【開催回数】5回

2025年度 目標

担い手も楽しめる絆まつりを開催！！

主な取り組み

- ・会員同士の交流を主な目的として、10月18日(土)「きずな交流 day」を開催



成果

- ・会員さんやご家族、ご近所の方々140名が参加し、交流を図ることができた

残された課題

- ・駐車場の確保が難しい状況を踏まえ、今後の絆まつりのあり方を考える

2026年度 計画

- ・駐車場の課題は残るが、交流を深めるイベントは開催する

リスク管理委員会

【委員長】奥田 路得

【委員数】4名

【開催回数】年間12回

2025 年度 目標

起こった「ひやり・はっと（事故）」を深掘し、対策を各部署に提案する

主な取り組み

- ・「ひやり・はっとch」を3号発行。「ひやり・はっと報告書」の内容を分析し、その対策を発信
- ・行事(総会や絆まつり)の際に、片付け忘れがないよう「片付け確認チェックシート」作成し活用
- ・「ひやり・はっと」手引きを修正し、皆で共有できるようラインワークスで投稿
- ・車椅子車両のリフト電池を点検し、ベルト類の片付け方の見本写真を全ての車椅子車両に設置
- ・「安全運転セルフチェック」アンケートをラインワークスで実施。その結果を集計し共有
- ・チャップ研修「ひやり・はっとのすゝめ」を3/11に開催。参加者は12名(リスク委員3名含む)

成果

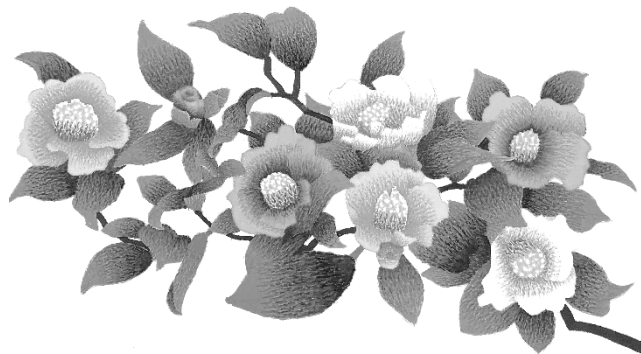
- ・2025年度「ひやりはっと報告書」提出件数は149件。提出してくださるヘルパーさんが増えた

残された課題

- ・今後スマホで「ひやり・はっと報告書」を提出できるよう検討し実施する

2026 年度 計画

- ・全部署から「ひやりはっと報告書」が提出されるよう啓発活動を行う。



絵：長坂 章代さん